

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会
都道府県 鳥取県
対象地域 鳥取県全域
対象品目 イチゴ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付けてください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

生分解性ポットの活用によって農業用プラスチックの排出量削減、作業省力化を図りながら、出荷量増加へと繋げていく

現在の栽培体系

×:親苗定植 △:苗受け □:太陽熱消毒 ●:定植 ■:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	本ば 育苗床
技術名			△ (ポリポット)	△									

グリーンな栽培体系

×:親苗定植 △:苗受け □:太陽熱消毒 ●:定植 ■:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	本ば 育苗床
技術名			△ (生分解性ポット)	△									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	8	8	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.015	1.6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.015	1.6	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.015	1.6	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	ポリボットの利用	▶ 生分解性ボットの活用	農業用プラスチックの排出量の削減 育苗時のボットの温度低下 花芽分化の促進 作業時間の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	農業用プラスチックの排出量の削減 （ボットのプラスチック使用回数）	1	▶ 0	ボットのプラスチック使用回数（1）→（0）
省力	定植時のボット除去及び片づけ作業時間の削減（時間/10a）	16.7	▶ 8.4	定植作業全体の県の標準時間（48）→（40）
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県内のイチゴ栽培において生分解性ボットの利用は少ない。そのため、栽培マニュアルを基に指導会や研修会、イベント等で技術紹介を行い、実施面積の増加に繋げていく。
--

関係者の役割

関係者名	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 園芸試験場 鳥取県 各農業改良普及所	JA等	鳥取県生産振興課	
役割	技術指導（JA等と随時連携）	技術指導（普及所等と随時連携）	事務手続き等	

その他